

二 ち ち 報 部

繰り返される弱者排除

「長く暮らした歴史 考えて」

一二年夏の説明会は、「決定事項」の通告という印象を受けた住民もいるという。稲葉さんは「若い住民は移転できるが、高齢者は身体的、精神的な負担から難しい。アンケートで、声に出せない住民の潜在的な不安が明らかになってい

る」。五日には、市民約五百人が競技場の周囲で手をつなぎ、建て替え反対を訴えた。十五日には、霞ヶ丘アパートを考える会が、全住民の意向を聞くことを求める要望書を、舛添要一知事に宛てに提出している。会に

参加する向井宏一郎・和光大非常勤講師は「取り壊しありきの進め方は、そこに暮らす人々の生活を無視している。アパートはただの箱ではない。長く暮らしてきた住民の歴史の重みを考えるべきだ」と訴える。

国立競技場の建て替えでは、霞ヶ丘アパートの住民のほかにも、追い立てられる人たちがいる。競技場の西側に位置する明治公園の一角では、野宿者五人が生活している。この場所は、新競技場では駐車場や商業スペースに予定されている。建設に先立っ

て近く、下水道工事や埋蔵文化財の調査などを始めるため、五人は退去を求められている。野宿者は「役所の世話にはなりたくない」「家族に連絡されるのは嫌だ」と生活保護を避けているケースが多い。退去になると、野宿者は暮らせる地域を探すことになるが、都内では夜間に施錠する公園も増え、

暴漢に襲われにくい場所を探すのも難しい。先に暮らす野宿者とトラブルになることもある。明治公園にいる五十代の男性は「ここを追い出されたら行くところ

はない」と話した。JSC新国立競技場設置本部運営調整課は「都と連携して必要な対応を取っていく」と説明する。しかし、野宿者の支援活動を続ける宮里シンタロウさん(三宅)は「JSCは立ち退きを迫るばかりで、野宿者のその後の生活を考えていない」と話す。

野宿者を追い立てるケースは、五輪開催の招致活動中の一二年三月、国際オリピック委員会(IOC)の評価委員会が来日した際にも起きていた。視察に向け、国立代々木競技場周辺の野宿者に対して「荷物やテントを即刻撤去する」と警告した。

五輪開催では、大規模な再開発が伴うことが多い。一九八八年のソウル五輪の際は、貧困層が住む数多くの住宅が撤去された。〇八年の北京五輪でも、政府発表で約一万五千人の立ち退きがあった。一二年のロンドン五輪、今年のソチ五輪でも再開発に伴う家賃高騰などで、暮らせなくなった人がいた。

五輪以外でも、一〇年の上海万博では約一万八千世帯が移転させられた。今年のワールドカップ(W杯)ブラジル大会でも、競技場の新設などに伴い、サンパウロなどで低所得者層が立

「アジェンダの趣旨、国際人権法の観点からも、いきなり開発案を提示して『これで決まったから退去を』という手法はそぐわない。当事者との誠実な話し合いを重ねないと、素晴らしい東京五輪にはならない」

国立競技場といえは、二〇〇四年四月、アテネ五輪出場をかけた女子サッカーの試合で、「格上」の北朝鮮チームに勝利した試合を思い出す。「なでしこジャパン」と命名される前だった。それぞれがそれぞれの思いを抱えている場所だ。新競技場のデザインも格好いいが、森に囲まれた今の方が好きだ。(文)

デスクメモ



手をつないで国立競技場の建て替えに反対する人たち。5日、東京都新宿区で



国立競技場そばの明治公園で暮らす人のテント。東京都渋谷区で

行き場ない野宿者も退去へ

再開発が伴うことが多い。一九八八年のソウル五輪の際は、貧困層が住む数多くの住宅が撤去された。〇八年の北京五輪でも、政府発表で約一万五千人の立ち退きがあった。一二年のロンドン五輪、今年のソチ五輪でも再開発に伴う家賃高騰などで、暮らせなくなった人がいた。

「アジェンダの趣旨、国際人権法の観点からも、いきなり開発案を提示して『これで決まったから退去を』という手法はそぐわない。当事者との誠実な話し合いを重ねないと、素晴らしい東京五輪にはならない」